

財政計画の進捗管理（モニタリング）について

1 検証にあたって

本計画は、平成 26 年度に策定しており、策定当時は、平成 26 年度は決算見込み値、平成 27 年度から平成 29 年度の計画期間は推計値を記載しておりましたが、今回の検証にあたって、平成 26 年度及び平成 27 年度は決算値、平成 28 年度は予算値に金額の置き換えを行いました。また、平成 29 年度は、下記のとおり、計画期間内での大きな変更箇所を加味し、再試算を行いました。

2 計画期間内での大きな変更

① コスト削減に向けた取組み

ア 職員数の削減（平成 27 年度～平成 29 年度）

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
現行の財政計画	正職員	21 名	21 名	21 名
	再任用職員	0 名	0 名	0 名
	非常勤職員	3 名	3 名	3 名
	合計	24 名	24 名	24 名
実績及び 財政計画の変更	正職員	20 名	18 名	17 名
	再任用職員	0 名	1 名	1 名
	非常勤職員	4 名	4 名	2 名
	合計	24 名	23 名	20 名

イ 料金分野の包括委託（平成 29 年 8 月を目途）

【別紙資料による】

② その他の変更箇所

ア 西の里旧配水池の耐震補強工事の財政計画期間外（H30～）への実施先送り

イ コスト削減に伴う下水道事務受託収益の修正

ウ 貸倒損失の見直し

エ その他

3 検証及び見直し

① 収益的収支

平成 27 年度決算と財政計画の平成 27 年度推計値とを比較すると、収益的収入においては、水道料金収入は、ほぼ推計値どおり推移しましたが、加入金及び手数料が約 5,000 千円の増収となったことや、退職給付引当金の戻入益が約 13,600 千円生じたことなどから、総額で約 18,000 千円の増収となりました。一方、収益的支出において

は、損益勘定職員（水道施設課管理担当）1名の人員削減や職員年齢の若返り効果などにより、人件費が31,000千円ほど減ったことに加え、修繕費等の不用額が生じたことなどから、総額64,000千円の減となりました。その結果、収益的収支は、財政計画では13,991千円の赤字推計でしたが、67,872千円の黒字決算となりました。

平成28年度以降の収支につきましては、今回の試算で、平成28年度、平成29年度とも赤字の予定ですが、当初の財政計画の推計値よりも赤字幅が減る見込みとなりました。

給水人口が下降の一途を辿り、給水収益が着実に逡減していることや、平成27年度から生じている新水源の受水費支払いにより、経営が圧迫しており、予断を許さない状況となっておりますことから、今後もさらなるコスト削減等の経営努力を続けていく必要があります。

② 資本的収支

平成27年度決算と財政計画の平成27年度推計値とを比較すると、資本収入においては、ほぼ推計値どおりとなりました。一方、資本的支出においては、老朽管更新工事については前倒し実施したため、財政計画よりも費用の増額となりましたが、西の里旧配水池耐震補強関連工事（仮配水池の築造）の実施先送り、配水管移設工事費、検年満期メーターの取替工事費、人件費の減などにより、総額では2億1千万円ほどの減額となりました。

平成28年度では、拡張整備費の増額や老朽管更新工事の前倒し実施のため、財政計画よりも4,900万円ほどの増額となりますが、平成29年度は西の里旧配水池耐震補強工事の実施先送りなどにより8,700万円ほどの減額となる見込みです。

以上、資本的収支の不足額を補てんする財源については、平成29年度末で3億7千万円ほど、当初の財政計画よりも増えておりますが、大きな要因は、西の里旧配水池耐震補強工事（仮配水池の築造及び配水池耐震補強工事）の先送り（平成30年度以降に実施）によるものであることから、将来の財源不足については、なお予断を許さない状況であることには変わりありません。